特集

司会の言葉

今関隆雄*

総会で毎年行われる若手研究者発表コンペティションの司会を担当した．昭和大学の麻酔学教室教授，細山田明義先生とご一緒だった．このコンペでは審査員によって優秀と認められた発表者には賞金が贈られるというユニークな特典が付いている．

以前は全て基礎的な研究が多く，比較するのに同一の観点で望めば良かったということだったが，最近は臨床的発表も含まれるようになり，多元的な比較審査が要求されるので，少しとまどいを覚えた．

第1席は岩手医大解剖学教室，斎野先生からで，演題名は"リアルタイム共焦点レーザー顕微鏡を用いた細動脈における細胞内のカルシウム濃度変動の画像分析"であった．ラットの脳と精巣から細動脈を分離し，Indo-1というカルシウム感受性蛍光色素を負荷して，共焦点レーザーで観測した実験である．細動脈の平滑筋を収縮させる薬物を投与し，収縮・カルシウム濃度上昇の変化様式を解析した．

第2席は岐阜大学内科学教室，荒井先生からで，演題名は"N-methl-1-deoxynojirimycin の虚血心筋保護における protein-kinase C の役割"であった．ウサギの心臓を使用した二つの実験群からなる．一つは N-methl-1-deoxynojirimycin（MOR-14）が本当に protein-kinase C を介して虚血心の心筋梗塞サイズ縮少に関わっているかという開胸下での実験（n-29）．二つ目は protein-kinase C の isoform である α と ε のどちらがより関わっているかという Langendorf-perfusion 実験（n-60）であった．

第3席は大阪医科大学臨床薬剤学講座，西堀先生からで，演題名は"メキシレチンの薬物動態と尿中代謝物の解析"であった．抗不整脈薬メキシレチンを服用している患者の血中濃度，及び尿中の代謝産物を測定している．個体間変動は小さいが，クリアランスには加齢の影響が大きいと結論づけている．

第4席は東京女子医大心研循環器外科，古川先生からで，演題名は"経皮的心肺補助装置（PCPS）の臨床使用経験－装置の変遷と回路の工夫－"であった．過去7年間に PCPS を使用した28例を対象に，その適応，経過，結果について報告している．

第5席は東京女子医大麻酔科学教室，鎌田先生からで演題名は"閉塞性肥大型心筋症の麻酔科管理"であった．一例報告で，術中経食道エコー（TEE）モニターが有用であったと結論づけた．

それぞれに熱心な討論が行われたが，結局第2席荒井正純先生が優秀賞に決まった．なんといっても実験系がすっきりしていて，症例数が豊かであったことが評価されたと思う．

しかしながら，基礎的実験報告と臨床的一例報告とを同列に比較することは難しく，どちらかに統一した方が良いという印象を持った．

*獨協医科大学越谷病院心臓血管外科

Presented by Medical*Online